

《生ワクチン〔麻疹・風疹・おたふくかぜ・水痘〕接種後の注意事項 2016》

- ◆今日は激しい運動を避けてください。熱が出ていなければ、入浴はかまいません。明日は熱もなく体調さえ良ければ、運動や入浴など普段と同じ生活で結構です。
- ◆接種時すでに、その病気に感染していて潜伏期間中であれば、ワクチンは間に合わずに発症しますが、軽くなることはあっても重症化することはありません。
- ◆6～8週間後に、少し採血をして抗体検査で免疫の陽転を確認しておくで安心です。
- ◆4週間以内に、他の予防接種をすることは避けてください。4週間目には出来ます。
- ◆これらの生ワクチンは1回でも十分な免疫ができれば安心ですが、2回接種が推奨です。
- ◆成人女性では、風疹接種後は8週間、麻疹・おたふくかぜ・水痘は4週間、避妊してください。

【麻疹ワクチン〔はしか、麻しん、Measles〕について】《MRワクチン》

- ①約10%の人で、7～10日後に38℃程度の熱が出たり、極く稀にからだに発疹が出たりすることがありますが、それらの症状は軽く一両日で消失し人に感染することはありません。もし熱が高ければ、坐薬などの解熱剤を使用してかまいません。5日目以内の発熱や、2日間以上持続する高熱は風邪など他の原因かも知れませんが、近医で診察してください。
- ②熱性けいれん（ひきつけ）のある方、または兄弟や両親に「ひきつけ」があった方は、発熱時の対策が必要ですので必ず申し出てください。
- ③明らかな感染機会〔2日前に会った友人が発症したなど〕から、3日以内ならワクチンで予防可能です。麻疹の診断は発症から3～5日遅れますので、家族内では間に合いません。
- ④接種後、約90～95%の人に免疫ができます。十分な免疫があれば発症を予防できます。HI法で8倍以上、NT法で4倍以上、PA法で256倍以上、EIA/G法で8.0以上必要です。

【風疹ワクチン〔三日ばしか、Rubella〕について】《MRワクチン》

- ①接種後2週間程たった頃、稀にからだに細かい発疹や耳の後ろのリンパ腺の腫脹や38℃程度の熱が出たりすることがありますが、それらの症状は軽く一両日で消失します。副反応による発疹から、人に感染することはありません。風疹の合併症としての血小板減少性紫斑病が、極稀に接種後にも報告されています。特に重篤なもの、心配なものではありません。
- ②年長児や成人では、約2週間後に膝などの関節痛や四肢のだるさがみられることがありますが、一過性ですので、じきに改善します。
- ④接種後、約90～95%の人に免疫ができます。十分な免疫があれば発症を予防できます。男性や小児では、HI法で16倍以上で大丈夫です。結婚・妊娠した時に風疹抗体の有無が大切になりますので、成人女性では32～64倍以上は必要です。接種後8週間は避妊してください。

【おたふくかぜワクチン〔流行性耳下腺炎、Mumps, Parotitis〕について】

- ①接種後2週間程たった頃、稀に38℃程度の熱が出たり、極く稀に耳の下が腫れたりすることがありますが、それらの症状は軽く一両日で消失します。人に感染することはありません。
- ②非常に稀に(5000人に1人程度)髄膜炎の発症が報告されています。2～3週間後に、高熱と嘔吐と頭痛(胃腸カゼ様の症状)が2～3日続いたら髄膜炎の疑いがありますので連絡ください。比較的軽症で、適切な処置をすれば1週間程でなおります。
- ③ワクチン接種せずに、自然のおたふくかぜにかかった時には、この程度の髄膜炎症状は約10%に見られ、脳炎や難聴(約800人に1人程度)や睾丸炎を合併することもあります。
- ④接種後、約70～85%の人に免疫ができます。十分な免疫があれば発症を予防できます。1回では免疫ができないことがありますから接種後の検査で、EIA/IgG法で6.0以上必要です。

【水痘・帯状疱疹ワクチン〔水ぼうそう、Varicella, Chickenpox〕について】

- ①副反応はまずありません。接種後2週間程たった頃、極稀に38℃程度の熱が出る可能性はありますが、人に感染することはありません。
- ③感染後3日以内であればワクチンが間に合うとされています。3日過ぎて免疫がなかったとしても、約1週間後から5日間予防薬を飲むと、予防または軽症化を期待することができます。
- ④接種後、約85～95%の人に免疫ができます。水痘ワクチンでは、免疫があっても約20%の人に軽い水ぼうそうの症状がでることがあります。発症を防ぐワクチンではありません。発熱もなく(あっても1日)、発疹もわずかで、しかも2～3日で「かさぶた」になり、友人に感染させることはほとんどありませんが、兄弟には感染することがあります。自然の水痘にかかると、3～4日間高熱や全身の水疱疹の掻痒感などの苦痛が続き、感染力も強く、一週間ほど幼稚園を休むことになります。その間の家族による介護も必要です。
- ⑤抗体検査で、IAHA法で2倍以上(年長児や成人は4倍以上)またはEIA/IgG法で4.0以上必要です。
- ⑥年配者の帯状疱疹の予防にも効果が期待され、老人施設などで追加接種が推奨されています。50歳過ぎたら、採血検査ではなくて水痘抗原皮内テストで特殊な免疫を調べましょう。